

いく訳ですわね。

それは宗教というものにしてもそうですね。その組織の中で、少しでも人より良くなるうという心を持つてしまう。使つかいようによつてはいゝかもしれませんがね。人間というものは、どうしても、人を蹴落けおとしてやろうとか、沢山集たくさんあつまった人を利用して、金を儲もちけようと考える。それから、

一、自分の暮くらしが良くなりた。

一、家族かぞくの不調ふちょう和わを、調和てんわしたい。

一、病びやう気きをしているので、何とか治なしたい。

一、家庭けいたいの中なかは、子供こどもと上う手てくいかないんだけど、何とかならぬだろうか。

一、良い学校がっこうに入いりたい。

一、良い人と結けつ婚こんしたい。

——こういうような事を考える。

中には、選挙せんきよで当選とうせんしたいという人もいる。これはこの前、私の処ところに相談そうだんに来た、或る議員ぎいんさんがいるんですわね。

一四、ある政治家の相談

「どうされましたか？」

「先生、私はね、今度当選出来るでしょうか？」

——当選とうせん出来るでしようかって、言われてもねえ……。 (笑)

「あなた、当選するつもりでやってるんじゃないの？」

「いやそれが、実はまずい事に、選挙前に、みんなに商品券しょうひんけんを配くばったのが分かってしまい、それで、告示こくじになる前にそれを回収かいしゅうしてきたもんですから……」

「何でそんな事したの？」

「いや、前回ぜんかいやった人と違って、今度新しい人が来て、分からなくて配くばったんですよ」「分からなくてやったって言うけど、あなた、知しっていて、やってたじゃないの——」

「……………!!」

「あなた、どうしても今期当選したいの？」

「はい」

「あなた、何回目なの？」

「はい、三回目です」

「当選したいっていうのは、あなた、三回当選しなかったら、恩給か何か、付かないから言ってるんじゃないの？」

「……………」

——そうなんです。どうしても当選しなきゃいけないんですね。私はそれを聴いて吃驚してしまっただけですね。

大方、政治をやる人というのは、そういう人が多いんじゃないでしょうか。

そのようにね、何回やっても、「自分が当選出来ないかな」、「何とかならないか」と、みんなそんな事を考えている訳ですよ。

そして、「私が死んだ後は、私の後を継いでくれる人は誰だろうな」、「死んだ後はどうなるのかな」と、みんな思う訳です。

私も、「人間とは……」と、やっていましたから、お墓というのは、何かあるんじゃないのかと思ったり、死んだ後は、お墓に行くぐらい思っていた訳ですよ。

ところが、実際は違うんですね。

皆さんの中でね、死んだら自分はお墓の中に行かなくてはいけないと思っている人は、即刻それを捨てる事——。

——「一五、縁とは約束事」に続く